

令和5年11月26日(日)施行

第212回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

第1問

①	間接労務費	②	直接材料費	③	間接経費
④	直接労務費	⑤	間接材料費		

第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材 料	405,000	買 掛 金	405,000
2	仕 掛 品	480,400	材 料	537,200
	製 造 間 接 費	56,800		
3	仕 掛 品	1,018,934	賃 金	1,252,232
	製 造 間 接 費	233,298		
4	仕 掛 品	1,832,000	製 造 間 接 費	1,832,000
5	製 品	273,450	仕 掛 品	273,450
6	売 掛 金	739,800	売 上	739,800
	売 上 原 価	621,895		

第3問

直接材料費

月初仕掛品	¥	316,800 300 kg	当月完成品	(¥	840,800) 800 kg
当月投入	¥	733,600 700 kg	月末仕掛品	(¥	209,600) 200 kg

加工費

月初仕掛品	¥	635,670 ? kg	当月完成品	(¥	2,423,960) 800 kg
当月投入	¥	2,030,770 ? kg	月末仕掛品	(¥	242,480) ? kg

第4問

①	イ	②	ア	③	エ
④	オ	⑤	ウ		

第5問

原価計算表

(単位：円)

指図書番号 摘要	#372	#373	#374	合計
月初仕掛品原価	(2,587,025)	—	—	(2,587,025)
直接材料費	(10,000)	(99,500)	(80,320)	(189,820)
直接労務費	(264,328)	(1,222,517)	(476,486)	1,963,331
製造間接費	(436,848)	(2,020,422)	(787,476)	3,244,746
合計	(3,298,201)	(3,342,439)	(1,344,282)	(7,984,922)
備考	完成	完成	仕掛中	

令和5年11月26日（日）施行

第212回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

第1問

- ① 水産加工工場で働く正規工員が設備のメンテナンス作業に従事した時間分の賃金は、製品の製造に直接かかわった人に支払われる給料ではないため、間接労務費となる。
- ② 水産加工工場にて調理された鮮魚の消費額は、製品の主要部分に用いる材料であるため、直接材料費となる。
- ③ 水産加工工場にて測定された当月の水道料は、メーターで測定した金額が当月の発生額となる測定経費であるため、間接経費となる。
- ④ 水産加工工場で働く調理担当正規工員が魚介類の調理に従事した時間分の賃金は、製品の製造に直接的にかかわった人に支払われる給料であり直接工賃金であるため、直接労務費となる。
- ⑤ 水産加工工場にて使用された金額が僅少な調理器具の購入額は、原価の安い工具などの消耗工具器具備品であるため、間接材料費となる。

第2問

1. 製品を製造するための各種物品合計¥380,000を購入した場合、材料勘定を用いて処理をする。ただし、購入に際しかかった送料は付随費用となるため、送料¥25,000は材料の購入原価に含める。

材料の購入原価＝材料の購入代価＋送料（付随費用）

$$= ¥380,000 + ¥25,000$$

$$= \underline{¥405,000} \text{（代金）}$$

代金は仕入先の普通預金に翌月末までに振り込むこととしたとあるので、買掛金勘定を用いて処理をする。

2. 出庫した各種物品合計¥537,200のうち、素材¥80,610と買入部品¥399,790は直接材料費となるため、材料勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。

直接材料費の額＝素材＋買入部品

$$= ¥80,610 + ¥399,790$$

$$= \underline{¥480,400}$$

残りの¥56,800は、工作機械の燃料として消費されたもので間接材料費となるため、材料勘定から製造間接費勘定へ振替える処理をする。

間接材料費の額＝出庫した各種物品合計－直接材料費

$$= ¥537,200 - ¥480,400$$

$$= \underline{¥56,800}$$

3. 直接工賃金¥1,252,232のうち、加工時間416時間と段取時間95時間は、直接労務費となり、賃金勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。また、間接作業時間104時間と手待時間13時間は、間接労務費となり、賃金勘定から製造間接費勘定へと振替える処理をする。

直接労務費の額＝直接工賃金÷（加工時間＋段取時間＋間接作業時間＋手待時間）×（加工時間＋段取時間）

$$= ¥1,252,232 \div (416h + 95h + 104h + 13h) \times (416h + 95h)$$

$$= ¥1,252,232 \div 628h \times 515h$$

$$= \underline{¥1,018,934}$$

間接労務費の額＝直接工賃金－直接労務費

$$= ¥1,252,232 - ¥1,018,934$$

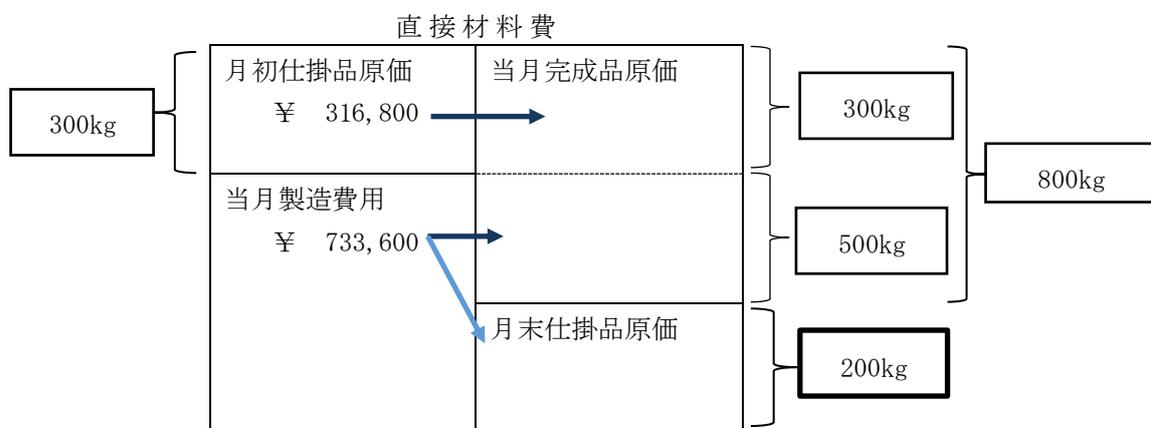
$$= \underline{¥233,298}$$

4. 当月の製造間接費配賦額が¥1,832,000であった場合、製造間接費勘定から仕掛品勘定へ振替える。
5. 製品が完成し顧客に引き渡すまでの間、倉庫に保管することにした場合、その製品を製造するために要した製造原価は¥273,450を仕掛品勘定から製品勘定へ振替える処理をする。
6. 売上原価対立法により記帳するので、先月完成し倉庫に保管していた製造原価¥621,895の製品を顧客に引き渡した場合、製品勘定から売上原価勘定へ振替える処理をする。
尚、同製品を¥739,800(売価)で引き渡したので、売上勘定を用いて処理をする。又、その代金については翌月末までに振り込まれることになっているため、売掛金勘定を用いて処理をする。

第3問

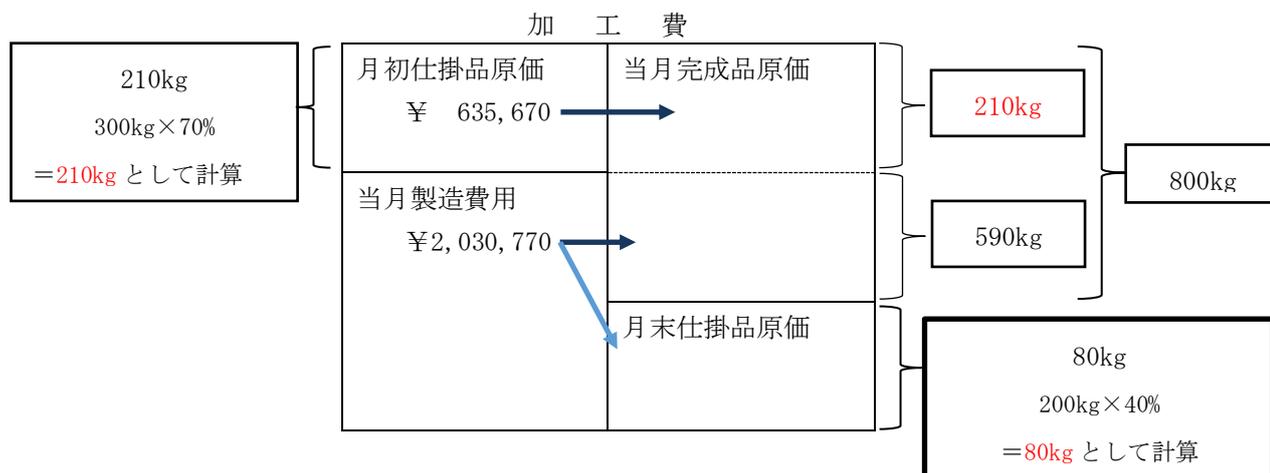
月末仕掛品原価と完成品原価を求める。

材料は始点で全量投入 月末仕掛品の評価は先入先出法によって計算



月末仕掛品原価： $¥733,600 \div (500\text{kg} + 200\text{kg}) \times 200\text{kg} = ¥209,600$

当月完成品原価： $¥316,800 + ¥733,600 \div (500\text{kg} + 200\text{kg}) \times 500\text{kg} = ¥840,800$



月末仕掛品原価： $¥2,030,770 \div (590\text{kg} + 80\text{kg}) \times 80\text{kg} = ¥242,480$

当月完成品原価： $¥635,670 + ¥2,030,770 \div (590\text{kg} + 80\text{kg}) \times 590\text{kg} = ¥2,423,960$

第4問

- ア. 直接工が工作機械の設定変更に従事した時間分の賃金
→ 賃金勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- イ. 補助材料の消費額
→ 材料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- ウ. 当月中に顧客に引き渡した製品の原価
→ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわす。
- エ. 当月分の減価償却費
→ 経費勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- オ. 当月中に完成した製品の原価
→ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわす。

- ① 材料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわしている。
これは、材料の消費額のうち間接材料費を意味している。よって、補助材料の消費額をあらわしていることになるため、 **イ** となる。

(借) 製造間接費	(貸) 材 料
-----------	---------

- ② 賃金勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。
これは、賃金の消費額のうち直接労務費を意味している。よって、直接工が工作機械の設定変更に従事した時間分の賃金をあらわしていることになるため、 **ア** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 賃 金
-----------	---------

- ③ 経費勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわしている。
これは、間接経費を意味している。よって、当月分の減価償却費をあらわしていることになるため、 **エ** となる。

(借) 製造間接費	(貸) 経 費
-----------	---------

- ④ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわしている。
これは、当月中に完成した製品の原価の振替えを意味している。よって、当月中に完成した製品の原価をあらわしていることになるため、 **オ** となる。

(借) 製 品	(貸) 仕 掛 品
---------	-----------

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわしている。
これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振替えたことを意味している。よって、当月中に顧客に引き渡した製品の原価をあらわしていることになるため、 **ウ** となる。

(借) 売 上 原 価	(貸) 製 品
-------------	---------

第5問

材 料 元 帳

(単位:円)

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
10	1 前月繰越	30	(1,000)	30,000				30	(1,000)	30,000
	2 出庫(#372)				10	(1,000)	(10,000)	(20)	(1,000)	(20,000)
	6 仕入	100	(994)	99,400				(120)	(995)	(119,400)
	7 出庫(#373)				100	(995)	(99,500)	(20)	(995)	(19,900)
	24 仕入	90	(1,006)	90,540				(110)	(1,004)	(110,440)
	25 出庫(#374)				(80)	(1,004)	(80,320)	(30)	(1,004)	(30,120)
	31 次月繰越				(30)	(1,004)	(30,120)			
		(220)		(219,940)	(220)		(219,940)			
11	1 前月繰越	(30)	(1,004)	(30,120)				(30)	(1,004)	(30,120)

製造指図書#372

<前月より製造着手 当月完成>

月初仕掛品原価

【問題文3】より

$$\text{直接材料費} \text{ ¥}79,920 + \text{直接労務費} \text{ ¥}945,328 + \text{製造間接費} \text{ ¥}1,561,777 = \text{¥}2,587,025$$

直接材料費

【問題文4】材料元帳作成より

$$10/2 \text{ に出庫した金額 } \text{ ¥}10,000$$

直接労務費

【解答用紙・原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】製造指図書別直接作業時間より

$$\text{¥}1,963,331 \div (152 \text{ 時間} + 703 \text{ 時間} + 274 \text{ 時間}) \times 152 \text{ 時間} = \text{¥}264,328$$

製造間接費

【解答用紙・原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦しているため【問題文5】当月の直接作業時間より

$$\text{¥}3,244,746 \div (152 \text{ 時間} + 703 \text{ 時間} + 274 \text{ 時間}) \times 152 \text{ 時間} = \text{¥}436,848$$

合 計

$$\text{¥}2,587,025 + \text{¥}10,000 + \text{¥}264,328 + \text{¥}436,848 = \text{¥}3,298,201$$
製造指図書#373

<当月より製造着手 当月完成>

直接材料費

【問題文4】材料元帳作成より

$$10/7 \text{ に出庫した金額 } \text{ ¥}99,500$$

直接労務費

【解答用紙・原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】製造指図書別直接作業時間より

$$\text{¥}1,963,331 \div (152 \text{ 時間} + 703 \text{ 時間} + 274 \text{ 時間}) \times 703 \text{ 時間} = \text{¥}1,222,517$$

製造間接費

【解答用紙・原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦しているため【問題文5】当月の直接作業時間より

$$\text{¥}3,244,746 \div (152 \text{ 時間} + 703 \text{ 時間} + 274 \text{ 時間}) \times 703 \text{ 時間} = \text{¥}2,020,422$$

合 計

$$\text{¥}99,500 + \text{¥}1,222,517 + \text{¥}2,020,422 = \text{¥}3,342,439$$
製造指図書#374

<当月より製造着手 当月仕掛中>

直接材料費

【問題文4】材料元帳作成より

$$10/25 \text{ に出庫した金額 } \text{ ¥}80,320$$

直接労務費

【解答用紙・原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】製造指図書別直接作業時間より

$$\text{¥}1,963,331 \div (152 \text{ 時間} + 703 \text{ 時間} + 274 \text{ 時間}) \times 274 \text{ 時間} = \text{¥}476,486$$

製造間接費

【解答用紙・原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦とあるので【問題文5】当月の直接作業時間より

$$\text{¥}3,244,746 \div (152 \text{ 時間} + 703 \text{ 時間} + 274 \text{ 時間}) \times 274 \text{ 時間} = \text{¥}787,476$$

合 計

$$\text{¥}80,320 + \text{¥}476,486 + \text{¥}787,476 = \text{¥}1,344,282$$